

輸血・細胞治療センター

1. 概要

当院の輸血療法が安全で適切に運用されていることを確認するため、2015年に日本輸血・細胞治療学会の外部委員によるI（inspection 監査）& A（accreditation 認証）を受審し、I & A施設認定を取得した。合わせて以下の規約等を整備した。規約では院内での血液製剤の実際の取扱い規約を定め、改訂が多岐にわたり頻回の適正使用のガイドライン等は厚生労働省、日本輸血細胞治療学会の最新のものを使用することとした。

同種造血幹細胞移植療法の充実を図るため、2015年に東三河地域で初めて、日本骨髄バンク非血縁者間骨髄移植や臍帯血バンクの施設認定を取得した。名古屋大学医学部附属病院、名古屋第一赤十字病院などと連携しながら、移植を必要とする患者さんが、適切な時期に適切な移植を受けられるよう体制を整えている。

今後も院内における輸血・細胞療法が安全性・適切性を保ちながら迅速に実施できるよう、輸血関連検査業務と血液製剤およびアルブミン製剤の管理業務、輸血療法委員会の開催、院内監査の実施を継続する。

（センター長 杉浦 勇）

2. 活動報告

A. 定期委員会

輸血療法委員会開催（2か月毎予定） * 6回実施

B. 新規事業

1) 規約等の整備

- ①輸血療法実施規約 初版
- ②院内血液製剤調整手順書
- ③輸血用試薬・機器管理手順書
- ④輸血療法説明文・同意書の改訂
- ⑤自己血輸血説明文・同意書の改訂
- ⑥その他

日本輸血・細胞治療学会編 「輸血副反応ガイド」の購入、各部署への設置

日本輸血・細胞治療学会 「輸血療法マニュアル」の配布

2) 輸血療法監査チームの設置

運営要領の策定

第一回輸血療法の監査実施

3) 手術センター内に血液製剤専用保冷庫の設置

8番手術室へ設置

C. センター業務実績

①検査件数 (件)

2015年	総数
血液型	17,357
不規則抗体スクリーニング	12,765
交差適合試験	6,163

②製剤使用状況 (単位)

2015年	総数
赤血球液(RBC)	12,282
新鮮凍結血漿 (FFP)	4,484
濃厚血小板(PC)	22,140

③製剤廃棄率 (%)

2015年	廃棄率
赤血球液(RBC)	0.60
新鮮凍結血漿 (FFP)	0.35
濃厚血小板(PC)	0.61

④アルブミン製剤 (本数)

2015年	本数
25%アルブミン	1,316
5%アルブミン	950

⑤副作用集計報告

2015年	副作用報告数(件)	実患者数(人)
赤血球液(RBC)	95	63
新鮮凍結血漿 (FFP)	41	14
濃厚血小板(PC)	255	66